

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

# NASHIM

ヒバクシャ医療国際協力通信



Vol. 22  
2008  
SPRING



韓国で被爆者医療セミナーを開催

- |             |       |                             |
|-------------|-------|-----------------------------|
| Report      | ..... | 韓国医師等への被爆者医療研修              |
| Report      | ..... | 韓国専門家派遣2008年～被爆者医療セミナーの開催～  |
| Report      | ..... | 出前出張講座の開催                   |
| Report      | ..... | グローバルCOEシンポジウム報告            |
| Information | ..... | 良順会館の紹介                     |
| Information | ..... | 永井隆博士を追悼するパイプオルガンコンサートのお知らせ |



## 韓国医師等への被爆者医療研修

NASHIMでは在韓被爆者への医療充実のため、毎年3回程度医師等の受け入れ研修を行っています。第1回目の研修については前号で紹介しましたが、さらに2回の受入研修を実施しましたので報告します。



被爆者地区検診の見学

相談を受けました。ソウル赤十字病院での実施は今年で2回目となります。この健康相談等事業の実施に備えて、研修で日本の検診活動を知っていただくこと、長崎市原子爆弾被爆者健康管理センターでの研修に重点を置いた内容としました。研修団は健康管理センターの概要説明を受け、センター内の視察を行った後、午後からは検診車が公民館等に向いて被爆者の検診を行う地区検診に同行して、被爆者検診の様子を視察しました。被爆者の健康診断が、センターでの検診のほかに、年間100ヶ所以上の地区へ出向いて行われているシステムに大変感心していたようでした。

第3回目の研修は2月の中旬に実施しました。今年度最後となる研修へは、ソウル赤十字病院と慶尚大学病院<sup>キョンサン</sup>から医師2名と陝川原爆被害者福祉会館<sup>ハプチョン</sup>の職員2名が参加しました。この研修では、医師と福祉会館職員のカリキュラムを分けて実施しました。医師2名は、放射線影響研究所や長崎大学医学部・歯学部附属病院でヒバクシャ医療に関する専門的な研修を受けました。



放射線影響研究所での研修



恵の丘原爆ホームでの研修

福祉会館職員へは、恵の丘原爆ホームで1日かけた実習的な研修を行いました。自分たちの職場である原爆被害者福祉会館との比較ができ、日本の施設に学ぶ点などを韓国へ持ち帰ることができたようです。



## 研修後の感想

〈第2回目研修者〉 ハ ジョンキョン  
河 鐘京(ソウル赤十字病院医師)

今回の研修を通して、原子爆弾の威力及びその惨状について、多く学ぶことができ、これによって、私が韓国の赤十字病院で診療した被爆患者さんの事をもう一度、考えさせられるよい契機になりました。また、被爆者に対する日本政府とNASHIMの努力を感じることができました。

健康管理センター及び原爆病院、そして、長崎大学病院の被爆者に対する努力と情熱などは、私にとっていい勉強になりました。帰国後は、整形外科(河医師の専門)に来られる被爆者の痛みを理解し、共感することができると思います。そして、被爆者からの健康相談により専門的に対応できると期待しています。

### 第2回目受入研修者



職 種	所 属	氏 名
医 師	ソウル赤十字病院	<small>ハ</small> 河 鐘京
看 護 師	ソウル赤十字病院	<small>キム</small> 金 ソンジャ 仙子
事務職員	ソウル赤十字病院	<small>イ</small> 李 テヒ 太熙
事務職員	大韓赤十字社特殊福祉事業所	<small>ヤン</small> 梁 シンヘ 信恵

〈第3回目研修者〉 イ エンヒ  
李 閏姫(陝川原爆被害者福祉会館看護師)

私は老人養護施設に勤務しているため、多くの研修先の中で、原爆養護ホーム恵の丘が一番印象深く、共感できる点と、学びたい点が多くありました。韓国より、ずっと早い時期から被爆者に関心を持ち、細かいところまで考慮され、環境に気を配った施設であるということが感じられました。

研修中、「以前は、施設入居者の手足になるのが責務だと考えていたが、年月がたつにつれ、入居者が自ら動ける能力を向上させるよう手伝う方向に変わりつつある」と職員の方に話を聞きました。この点では、少しでも入居者の運動機能を維持するよう日本の施設に習い、私の職場でも実行したいと思いました。

### 第3回目受入研修者



職 種	所 属	氏 名
医 師	ソウル赤十字病院	<small>チャン</small> 張 <small>ヘ</small> 軒 恵炅
医 師	慶尚大学病院	<small>ナ</small> 羅 セボム 在範
看 護 士	陝川原爆被害者福祉会館	<small>イ</small> 李 エンヒ 閏姫
生活指導員	陝川原爆被害者福祉会館	<small>イ</small> 李 キジャ 貴子



## 韓国専門家派遣2008年 ～被爆者医療セミナーの開催～

長崎大学大学院原爆後障害医療研究施設  
准教授 三根 真理子



2月13日、原爆に関するセミナー開催のため、塚崎邦弘先生、長崎県の山口勇次係長と私の3名で釜山<sup>マサン</sup>に向かいました。目的は馬山<sup>カンジュ</sup>医療院と光州健康管理協会にて在韓被爆者健診に携わるスタッフに原爆に関する知識を持ってもらうことです。二日とも職員の業務終了後ということで夕方5時半の開始でした。



看護師を中心としたセミナー参加者

### 【馬山医療院】

釜山空港から高速バスで1時間のところに馬山があります。

馬山医療院の院長は出張中のため診療部長とお会いしました。外科が専門とのことでした。この先生は夜の会食の場で「鉄で焼肉を切るのは外科手術の練習に良い」と、鉄さばきを見せてくださいました。馬山医療院スタッフにはセミナー会場設営、プレゼン準備などの確かつ周到な準備をしていただき、事前のチェック

も行なえました。原爆アニメ「アンゼラスの鐘」ダイジェスト版上映希望にも快く対応してくださいました。

プレゼンと配布資料は事前に韓国語に翻訳されていました。完璧な準備!と感激する間もなく、塚崎先生と私は少しあせりました。プレゼンの画面をみても読めないのです。通常、画面をみながら説明をしていきますので、なんじゃこりゃ状態でした。とりあえず、手持ちの日本語版配布資料をカンニングペーパーにしての講義でした。参加者は看護師さんや事務関係者70名近くで、皆さん熱心に聴いておられました。前半は私が「長崎原爆と大学」という演題で話をしました。後半は塚崎邦弘先生が「被爆者のがんリスクと検診」という演題で話されました。私が原爆のこと、救護活動、直後の急性症状や後障害を簡単に紹介し、詳細は塚崎先生が説明されるという流れです。前半と後半の話がつながるのは聴講者にとってわかりやすいだろうと想像します。塚崎先生と打合せをしたわけでもなく偶然の組み合わせが最高だったと満足感にひたりました。



馬山医療院スタッフ

### 【馬山から光州へ】

2月14日、馬山からワゴン車で4時間ほど高速を走り、光州に向かいました。車中からは高層マンション、お墓など韓国特有の景色が眺められました。土地が少ないので高層マンションに住む習慣があるそうです。またマンションは高価ですが引っ越しの際にはすぐあとに入る人がいるという利便性もあるそうです。ときどき目にする民家の屋根は日本のものよりそりかえっています。韓国の美だそうです。立派なお墓の前に饅頭のような山がいくつもあります。これは土葬されているものだそうです。





韓国健康管理協会スタッフと記念撮影

産婦人科が専門とのことでした。68歳には見えない若々しさでした。「長崎の歌」という原爆に関する著書を読み感銘を受けた、三根が登場するのだが関係あるのかという質問から始まりました。これがきっかけで韓国語の著書を長崎にもどり探すことになりました。帰国後、永井隆記念館を訪れました。韓国のカトリック教会大主教である李文熙<sup>イムヒ</sup>という方が「永井隆の生涯」を「愛の歌、平和の歌」というタイトルで韓国語の著書にされていたことが分かりました（2000年発行）。セミナーは院長をはじめ職員60名近い参加がありました。ここでは、大腸がんのリスクは一般人と違うのか、遺伝に関する研究結果、精神的なことについての現状、認知症に関する研究結果、自殺者に関する研究結果はあるかなど活発な質問がでました。

### 【光州健康管理協会】

光州健康管理協会は正式には韓国健康管理協会の光州・全南支部というそうです。韓国には支部が15箇所あるそうです。韓国健康管理協会本部から来られた課長さんの話では、支部の中でも光州は健診管理のレベルが高いとのことでした。光州健康管理協会では事務局長さんとお会いして、まず塚崎先生が前回訪問の相談事業についてお礼を述べられました。尹政雄<sup>ユンジョン</sup>院長（長崎で言えば検診センター長）は



セミナー風景



調教授が勤務した病院（現在看護大学）

している最中で、何か情報があれば教えて欲しいとのことでした。帰国して早速、調来助先生のご令嬢である朝子様<sup>アサノ</sup>に報告いたしました。

今回の訪問で知識の共有に言語が重要であることを再認識しました。ナシム紹介の韓国語版パンフレットは作成されておりますが、原爆影響パンフレットの韓国語版はありません。今後の検討課題と思います。

最後に馬山医療院、光州健康管理協会並びに長崎県スタッフの周到な準備に感謝いたします。また大韓赤十字社の吳尚恩<sup>オサンウン</sup>さんの心行き届く日本人向け対応に感謝すると共に、通訳の金鎮姫<sup>キムジンヒ</sup>さんの熱心な通訳と配慮に感謝いたします。

### 【偶然のできごと】

通訳の金鎮姫<sup>キムジンヒ</sup>さんの事前調査により調来助先生が1937年、全羅南道立光州医院の院長をされていたことが判明、セミナー前の空き時間を利用して訪問しました。今では全南大学病院になっていました。昔の建物が残っていないかを広報室の方に確認し、一つだけ残っていることがわかりました。現在は看護大学として利用しているとのことでした。2010年に100周年を迎えるとのことで、資料を収集



## 出前出張講座の開催

NASHIMでは、小中学生を対象として、ヒバクシャ医療国際協力や放射線被ばく医療等について知っていただくため、昨年4月からヒバクシャ医療に関する出前出張講座の計画を練ってきましたが、記念すべき第1回目の講座を3月の初めに長崎市の高尾小学校で開催しました。

授業は「身近な放射線の話」というテーマで、長崎大学先端生命科学研究支援センターの松田教授が行い、卒業を間近に控えた6年生94名が、普段聞くことのできない授業を興味深く真剣に聴いていました。

松田教授は、「放射線とは音や携帯電話の電波と同じように空気中を伝わるエネルギーで、見えない、聞こえない、臭わない、感じないもの」と説明し、放射線測定器を松田教授自身の体や準備してきたし昆布、岩盤浴の石、塩化カリウム粉末などにあて、どこにも存在することを実証しました。放射線を検知するとピーという音をたてながらメータの動く測定器は、生徒の皆さんにとって大変めずらしかったことでしょう。



岩盤浴の石を放射線測定器で測定

授業の後半は松田教授から「日本には放射能をもった温泉がある？」などの放射線に関するクイズが7問出され、7名の生徒さんが見事全問正解しました。授業後の質疑応答では、「放射線でダイヤモンドに色を付けることができるというのは本当ですか」などの質問がありました。

NASHIMでは、今後もこの出前講座を継続して開催する予定です。たくさんの小中学生に講座を受講していただき、NASHIMの活動を知っていただくとともに、ヒバクシャ医療や国際協力に興味を持っていただきたいと思います。

## 授業後の感想

- 放射線がこんなに身近にあるとは思いませんでした。家に帰って放射線やNASHIMのことを話すとみんな興味を持って聞いてくれ、もっと知りたいと思いました。
- 私は放射線を少しでも受けたりすると脱毛すると勘違いをしていました。ちゃんと知識を持つことが大切だなと思いました。
- 私たちも今放射線をあびているという話に驚きました。害のある放射線についてしか知らなかったので、放射線を見つける機械を昆布に向ける実験をした結果には驚きました。
- 放射線は色々なことに使われていて便利だと思ったけれど、使い方をまちがえると大変なことになると思いました。この授業を受けて、放射線についてもっと知りたいと思いました。



# グローバルCOE シンポジウム報告

1月31日から長崎大学において、グローバルCOEシンポジウム「新学際領域『被ばく医療学』の教育・研究拠点形成に向けて」が行われました。



シンポジウム開会式後の記念撮影

グローバルCOE (Center of Excellence) プログラムとは、「日本の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりの推進を目的とする文部科学省研究拠点形成等補助金事業」です。長崎大学では「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」が平成19年度から5年間の予定で採択されました。このプログラムは、これまで長崎大学が構築したチェルノブイリやセミパラチンスクといった旧ソ連邦のフィールドを中心とした拠点や、欧米を中心とした放射線生命科学拠点を活用して、国内外における本分野の人材育成を目的とするものです。さらに本プログラムでは、世界保健機関(WHO)をはじめとする放射線と健康に関連する国際機関と連携し、将来的には国際機関において放射線健康リスク制御のための各種ガイドラインやスタンダードを、策定、発信できる人材を育成することで、「被ばく医療学」の分野における人材の育成を図っています。

今回のシンポジウムは、グローバルCOEプログラムの開始にあたり、旧ソ連邦や欧米、それにアジア各国からの研究者20名を含む放射線疫学、被ばく者医療、及び放射線生物学の国内外の著名な専門家42名が招聘され、基調講演や研究発表が行われました。今後今回の成果をもとにして、グローバルCOEプログラムを通じた「被ばく医療学」の専門家、特に若い人材の育成が行われる予定です。



シンポジウムの様子



## 良順会館の紹介

長崎大学医学部では、創立150周年記念事業の一環として、「良順会館」を建設しました。良順会館は、オランダ人海軍軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトとともに同学部の創立に関わった人物のひとりである松本良順にちなんで名付けられたもので、215席を備えた会議室「ボードインホール」、多目的に利用できる会議室「専齋ホール」のほか、日本の近代西洋医学発祥の歴史と医学部150年の歩みを紹介する展示室「150周年ミュージアム」などを備えた、生涯学習国際センターとしての役割を果たすものです。また、「ボードインホール」には同時通訳室も完備しており、多様な国際会議に対応できるようになっています。

1月31日から行われたグローバルCOEシンポジウム「新学際領域『被ばく医療学』の教育・研究拠点形成に向けて」をこけら落としとして、種々の国際会議やシンポジウム、また市民公開セミナーが行われています。一般の方、また「150周年ミュージアム」の見学だけでも可能ですので、ぜひお気軽にお越しください。



## 永井隆博士を追悼する パイプオルガンコンサートのお知らせ



昨年の2月3日から永井隆生誕100年記念事業実行委員会などにより、博士生誕100年を記念した様々な行事が行われているところですが、博士の命日となる5月1日に、博士を追悼する催しが長崎市のカトリック浦上教会で行われます。

当日は世界的オルガニストとして全米をはじめ欧州、ロシア、チェコ、韓国などで活発な演奏活動をなさっているグレゴリー・ダゴステイーノさんが来日し、パイプオルガンコンサートを開催します。このコンサートは、グレゴリーさんの演奏に心を惹かれた博士の娘茅乃さんのご希望で計画されたものです。また、演奏の前には、九州のキリシタン研究の第一人者で、「永井隆の生涯」をはじめ多くの著書を残された片岡弥吉さんの娘片岡留美子さん（長崎純心大学教授）が、永井博士や茅乃さんとの思い出などを特別記念講演としてお話しされます。

永井隆博士生誕100年の記念行事を締めくくるコンサートに、ぜひご参加ください。

※このコンサートの詳細については下記にお問い合わせください。

長崎如己の会（永井隆記念館内 TEL/FAX 095-844-3496）